

# PROFILE

## 河野 憲 二

京都大学大学院医学研究科認知行動  
脳科学分野教授



平成15年4月から、川口三郎名誉教授の後任として、京都大学大学院医学研究科認知行動脳科学分野を担当することとなりました。

私は、昭和49年に東京大学医学部医学科を卒業いたしました。在学中より、脳研究に興味を引かれ、脳研究施設神経生理学部門の島津浩教授の研究室で、島津先生と古屋信彦先生との実験に参加させていただいたのが、研究を始めたきっかけです。大学院に入学後、脳が動物の行動をどのようにしてコントロールしているかという点に興味を持ち、覚醒サルを用いた研究をするため、京都神経科学総合研究所の酒田英夫先生のもとで慢性実験の手ほどきを受けました。酒田先生は当時Johns Hopkins大のMountcastle教授のもとから帰国されたところで、覚醒サルの頭頂葉の研究は始まったばかりの時期でした。実験を始めると、次から次へと不思議な性質を持つニューロンが記録でき、毎日毎日の実験がとても楽しみでした。この間の研究で、眼球運動が動物の行動を定量的に計測するのに最もふさわしい系であるとの認識を深め、昭和56年から4年間、米国N.I.H., National Eye InstituteのF.A. Miles博士のもとに留学し、追従眼球運動の行動学的研究を行いました。追従眼球運動は、体を動かすときに起こる視界の網膜上のぶれを防ぎ、良好な視覚を保つための眼球運動で、広い視野の視覚刺激の動きで誘発されます。この眼球運動がどのような神経機構で制御されているのかに興味を持ち、昭和60年に帰国後は、電子技術総合研究所にて、眼球運動実行中のサルからニューロン活動を記録する電気生理学実験にもどり、大脳MST野から橋核、小脳を経

て脳幹に至る神経回路が追従眼球運動の発現に関与していることを明かにしました。

平成13年に通産省工業技術院傘下の研究所が独立行政法人化され、産業技術総合研究所となり、脳神経情報研究部門長を任され、自分では実験できない立場にしばらく置かれておりましたが、このたび4月から、京都大学に赴任することとなり、新たな気持ちで自分の研究を再開したいと思います。私のこれまでの研究では、動物の行動の解析とその制御のための神経機構の解明を志してきましたが、今後は、今までの研究から全貌がつかめてきた追従眼球運動系を手がかりとして、知覚・認知など、より高次の脳機能にアプローチしていきたいと考えています。また、大学という教育の場にいることを活かして、若い学部学生に神経生理学の魅力伝えていきたいと思っています。今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 略歴

- 昭和49年 東京大学医学部医学科卒業
- 昭和55年 東京大学大学院医学研究科単位取得退学
- 昭和55年 東京大学医学部助手
- 昭和56年 Visiting Scientist, N.E.I., N.I.H., U.S.A.
- 昭和60年 通産省工業技術院電子技術総合研究所
- 平成13年 (独) 産業技術総合研究所脳神経情報研究部門長
- 平成15年 京都大学大学院医学研究科認知行動脳科学分野教授